

「高エネルギー密度科学」に関する日英ワークショップが、都内の英国大使館で開かれた。大阪大学と英国科学技術施設会議（STFC）の共催で、今後の分野で日英両国が新たな協力関係を築くことを決めた。ワークショップを推進した大阪大学の兒玉了祐教授と、英ラザフォード・アップルトン研究所のピーター・ノリス中央レーザー施設プラズマ物理グループリーダーにその成果を聞いた。（藤木信穂）

世界的に研究が盛んな高エネルギー密度科学は新しい学問領域です。兒玉氏「『高エネルギー密度科学』という言葉ができたのは古く1930年代で、宇宙の研究から生まれた。その後レーザーが発明され、レーザー

「高エネ密度科学」で日英ワークショップ

「高速点火」を超える成果を 両国の専門家2氏に聞く

大規模施設の建設を進めているが、日英両国はスケールを小さくし、コストを最小限に抑えた研究施設を作りたいと考えている」

「これまでも両国は協力関係を築いています。ノリス氏「日英の共同研究が生んだ高速点火核融合技術の成果は大きい。これは内燃機関であるエンジンと同じ原理で、燃料を高密度にする

とエネルギーがスパークする。電気を起こす高速点火核融合は将来のエネルギー代替技術になるだろう」

兒玉氏「英国とは20年以上共同で研究を進めてきたが、従来は核融合やX線レーザーなど特定の領域に限っていた。今後は高エネルギー密度という領域で、粒子加速や研究宇宙物理などの分野でも相互に協力する」

「今後の計画は。兒玉氏「高エネルギー密度科学という学際的な領域を設けることで、これまで専門分野に閉じてもっていた研究者同士を同じテーブルで議論できるようにする。次回は2年後に英国で同様のワークショップを開く予定で、その先も2、3年ごとに活動を継続する」

ることが可能になる」

「世界の現状と両国が進める研究方針は。

ノリス氏「地球温暖化問題に対処するため、英政府はエネルギー関連の研究を最優先分野に位置づけている。高エネルギー密度科学領域では米国とフランスが



兒玉大阪大教授（右）とノリスレーザー

平成19年9月28日（金）朝・夕25面
新聞（朝日 毎日 読売 産経
日経 日刊工業）